

## 学校経営推進費評価報告書（1年め）

### 1. 事業計画の概要

学校名	大阪府立堺支援学校	
取り組む課題	児童・生徒の自立支援児童・生徒の学力の充実	
評価指標	1 視線入力装置を扱える教員数の向上。 2 視線入力装置を用いたアセスメントの活用率の向上。 → 3 児童・生徒の発達を支援する学習ツールとしての活用率の向上	① 視線とパソコンの連動性の認知 ② 視線入力とパソコン画面（ソフト）の関連性の認知 ③ 意思伝達可能児の発掘・育成等
計画名	「重度肢体不自由（発話が困難）の視線入力装置を活用したアセスメントの充実とコミュニケーション力の向上」	

### 2. 事業目標及び本年度の取組み

学校経営計画の 中期的目標	1 教職員の資質向上を基とした学校力向上 (1) 児童・生徒が有する力の客観的評価と、それに基づく指導体制の構築。 ウ 視線入力システム導入による、児童・生徒のコミュニケーション力向上への取り組み。 ※ 教育環境の改善を試みると共に、視線入力システムによる指導プログラムを作成する。
事業目標	1. 視線入力装置を児童・生徒のアセスメント（視野・眼球運動等）に活用することで、本校の自立活動領域のアセスメントでの課題の検証に活かし、実態に応じた合理的配慮を整え、適切な指導を行う。 2. 視線入力装置の仕組みや使い方を学び、学習ツールとして活用することで、自己表現力を育み、コミュニケーション力を向上させ、将来の自立と社会参加に向けた学びの充実を図る。
整備した 設備・物品 (数量)	視線入力装置一式 ノートパソコン: Windows10 Pro (i5/8GB/500GB) (3) 視線検出装置: tobii PC Eye Mini (3) 視線入力ソフト: tobii communicator 5 (1) 視線分析ソフト: tobii Gaze Viewer (3) ノートパソコン用固定具: パソッテルH型ノートPC用Bタイプ (3) 外部ケーブル: Eye コール (3)
取組みの 主担・実施者	主担: 視線入力活用機器推進プロジェクト（指導教諭1名、リーディングスタッフ1名、自立活動専任スタッフ3名、自立活動分掌部員1名） 実施者: 全教員の6割程度（学習ツール活用率）9割程度（アセスメント活用率）を予定
本年度の 取組内容	〈環境整備〉 ・視線入力装置を学部ごとに使えるように配置した。常時使えるように高等部職員室前にも設置し、誰でも気軽に使えるようにした。無料ソフトダウンロードやバージョンアップを行い、常に最新の状態を維持した。 ・指導プログラム及び評価表を作成し学習時の記録や視線履歴を保存することで、共通理解できる学習レベルの状態（段階）の把握を図った。 〈校内支援・研修〉 校内自立活動研修による視線入力装置の周知と理解推進。（自立活動部員による研修2回/視線機器の専門スタッフによる研修2回【個人レベル対応での研修2回】）専門スタッフによる研修でインストールされているソフトの使用方法を具体的に説明を受けた。

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自立活動専任スタッフ及び自立活動分掌部員によるアセスメントへの活用事例報告会。（教職員に視線入力装置を使って児童・生徒のアセスメントの様子を紹介し、知識と理解を深める）</li> <li>・スーパーバイザーによる授業支援及び協議と ICT 研修。（校内）</li> </ul> <p>〈保護者への発信〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「校長だより」において、視線入力機器を活用した自立活動の紹介。</li> <li>・「自立活動だより」において、保護者への情報提供。</li> </ul> <p>〈地域支援〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・夏季研修会で地域の学校にアセスメントのデモンストレーションを行った。</li> <li>・府内の支援学校への視線入力機器の情報提供及び支援を行った。</li> <li>・学校運営協議会で本校の視線入力機器及び学習効果のプレゼンを行った。</li> <li>・リーディングスタッフと連携し、地域の小学校でのアセスメントと視線入力装置導入の支援を行った。</li> </ul>
<p>成果の検証方法 と評価指標</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 視線入力装置を扱える教職員を 20%以上にする。</li> <li>2 視線入力装置を用いたアセスメントの実施率について、対象児童・生徒（重度肢体不自由（発話が困難））の 40%をめざす。</li> <li>3 対象児童・生徒（重度肢体不自由（発話が困難））における視線入力装置の学習ツールとしての活用率。 ①視線と連動性の認知 ②視線入力と PC 画面（ソフト）の関連性の認知 ③対象児童・生徒の意思伝達能力を評価しその能力の向上を図る（3-①41% 3-②16% 3-③3%）</li> </ol>
<p>自己評価</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 自立活動部全体で研修や授業等で支援を行ったが、まだまだ新しい取り組みということでハードルが高く、積極的な活用までには至らなかった。（高等部は普通課程の教職員のみカウントしている）しかし、『視線入力装置』の研修への参加率は高く、毎回 50 名近い参加者だった。特に視線入力スーパーバイザーによる研修の参加者が最も多く良いスタートが切れた。機器購入会社のコミュニケーション担当者による視線入力体験を通じた研修では、視線入力機器というものに触れ興味を持つ良いきっかけとなった。（目標 20%&gt;達成 19%△）</li> <li>2 全学部で 32 名のアセスメントを行った。アセスメントは対象児童・生徒の 40%をめざしていたが、66%に達することができ、その中には『アセスメント』から『見る力の向上』へと移行した児童・生徒もいる。（目標 40%&lt;達成 66%◎）</li> <li>3 視線入力装置を用いた学習ツールとしての活用率 ①視線と連動性の認知 ②視線入力と PC 画面（ソフト）の関連性の認知 ③対象児童・生徒の意思伝達能力を評価しその能力の向上を図る（3-①65%（◎） 3-②13%（△） 3-③2%（△））</li> </ol>
<p>次年度に向けて</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・対象児童・生徒（重度肢体不自由（発話が困難））に対するアセスメントの実施は 31 名を予定していたが、最終的に 48 名に実施することができた。</li> <li>・2年めはすでに扱っている教員が、一緒に授業を行っている教員に支援することで、視線入力装置を扱える教員数を更に増やし、利用する児童・生徒数も増やしていく。</li> <li>・アセスメントへの活用は目標を上回る結果となった。この取り組みを見る力を向上させる学習につなげ、「対象物を見る意識が高まった」「広範囲に見ることができるようになった」等の一定良い結果を得ている。2年めも学習ツールとして活用して意思伝達能力を評価し、その能力の向上を図る取り組みを進める。購入したソフトや PPT など個人に対応したソフトを作成する取り組みも進めたい。</li> <li>・今年度、外部支援はかなり充実して行えた。また、府下の支援学校（肢体）に視線入力装置に関する予算配当がされたことで、既に2校から相談・見学の依頼が来ている。今後も視線入力による学習を深め、他校のモデル校となるよう努める。</li> </ul>